

事業番号	0	0	8
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	少年・婦人消防クラブ活動事業				担当部	消防本部					
事業期間	昭和63年度以前 ~ 令和2年度以降				担当課	予防課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	03	展開方向	2							
予算区分	一般会計	款	09 消防費	項	01	目	01	大	05	中	02

2. 実施状況

【平成30年度の実施状況】

1 少年消防クラブ

(1) 火災、救急(AED)、地震等の体験ができる愛知県消防学校1日入校に市内16小学校から各2名を入校させた。
(2) 火災の恐ろしさ、住宅用火災警報器の重要性及びAEDの取扱いを学ぶ夏休み消防教室を4回開催し、43名参加した。
(3) 火災予防の周知を図るため、秋季・春季の火災予防運動に伴う防火広報を秋・春各1回実施し8名参加した。
(4) 火災予防の関心を深めさせるため、夏休みに防火ポスターを募集、570点の応募があり上位入賞作品を展示した。
(5) 火災予防の関心を深めさせるため、冬休みに防火習字を募集、318点の応募があり上位入賞作品を展示した。
(6) 防火意識の向上、少年消防クラブの活動等を紹介するため、小牧市少年消防クラブ会報を市内16小学校に2回送付した。

2 婦人消防クラブ

(1) 各婦人消防クラブに補助金(上限1万円)を13クラブ(クラブ員5名以上で、希望クラブのみ)に交付した。
(2) 消火器、AED等の取扱い等を学ぶ愛知県消防学校女性消防クラブ指導者科に2名入校させた。
(3) 火災予防の周知を図るため、秋季・春季の火災予防運動に伴う防火広報を秋・春各1回実施し7名参加した。
(4) AEDの取扱い等を学べる普通救命講習を4回実施し41名参加した。
(5) 視察研修会(名古屋大学減災館等)を実施し20名参加した

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1			
			直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	761	671	559
			国・県支出金	千円	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0		
			計(A)	千円	761	671	559	527		
			対前年比	%	-	88.2%	83.3%	94.3%		
			(当初)予算額	千円	1,367	1,425	1,207	1,147	1,162	
			人件費	正職員	人	0.3	0.3	0.3	0.3	
				正職員(平均人件費)	千円	2,246	2,246	2,246	2,246	
				その他職員	人	0	0	0	0	
				その他職員(時給×年間時間)	千円	0	0	0	0	
			計(B)	千円	2,246	2,246	2,246	2,246		
			事業費合計(C=A+B)	千円	3,007	2,917	2,805	2,773		
指標	成果指標	少年消防クラブ員の愛知県消防学校1日入校者数	目標	32	32	32	32	32	32	
			実績	31	32	32	32			
	活動指標	夏休み消防教室開催数	目標	-	4	4	4	4	4	
			実績	-	4	2	4			
	②事業費	婦人消防クラブ員に対する普通救命講習実施回数	目標	3	4	4	4	4	4	
			実績	3	4	4	4			
		受益者数(a)	人	-	-	-	-			
		受益者あたり事業費(b=C/a)	円	-	-	-	-			

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業費(直接経費)は、平成28年度から平成30年度にかけて減となっている。この要因は、主に各婦人消防クラブへの補助金額の減少によるものと考えられる。 ○ 少年消防クラブ員の愛知県消防学校1日入校者数の成果指標の実績値は、平成27年度以外目標値を達成している。平成27年度は体調不良による1名減であった。今後とも目標値を達成できるよう事業を実施していく。 ○ 婦人消防クラブ員の愛知県消防学校女性消防クラブ指導者科入校者数の成果指標の実績値は、目標値を達成している。令和元年度は、目標値を2名から9名にし目標値を達成できるよう事業を実施していく。 ○ 夏休み消防教室開催数の活動指標の実績値は、平成29年度以外目標値を達成している。平成29年度は警報発令により開催できなかったため。今後とも目標値を達成できるよう事業を実施していく。 ○ 婦人消防クラブ員に対する普通救命講習実施回数数の活動指標の実績値は、目標値を達成している。今後とも目標値を達成できるよう事業を実施していく。 ○ 補助金額の減少の要因は、婦人消防クラブ数の減少によるものと考えられる。この課題の解消に向けて、婦人消防クラブ未設置行政区に対し、婦人消防クラブの設置を啓発していく。 			

4. 総合評価

事業の方向性 削減額・対象	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの				
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節	節
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少年消防クラブは、市内小学校の4・5・6年生と市内中学校の全生徒で構成されています。毎年クラブの構成員が入れ替わるため、新規構成員を中心に今後も事業を継続していく必要がある。 ○ 婦人消防クラブ員の高齢化等の理由により、婦人消防クラブ数の減少が続いている。今後も事業を継続しつつ、婦人消防クラブの未設置地区に対し、婦人消防クラブの設置を啓発していく。 ○ 少年消防クラブ員及び婦人消防クラブ員は、当市の防火・防災を担う上で大変重要な人材であることから、当該事業としては事業全体のボリュームとして「維持」と判断した。 					